

白山ふるさと文学賞

第三回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈作文「母へのおもい」〉

小学生高学年の部 優秀賞

母へのおもい

北陽小学校六年

山口 やまぐち

莉子 りこ

「いらつしやいませ。」

「ありがとうございます。」

私のお母さんは、接客業の仕事をしています。祖母と買い物に行った時に、そう大きな声で、お客さんを見送っているお母さんを見かけたことがあります。制服を着て仕事をしている姿は、家で見えるお母さんの顔とは少しちがって見えて、私はなんだかはずかしいような、照れくさいような気分になりました。でも、一生けんめい接客をしている姿は、たのもしく感じました。

お母さんは、会社の人たちと交代でお休みをとるので、決まった曜日の休みがありません。とくに、土日や祝日の日はお店がいそがしい日なので、ほとんどが仕事になります。私の学校の休みの日に、いっしょに休みということがあまりありません。だから、月に一度か二度のいっしょの休みがあると、前の日の夜からワクワクします。毎回どこかへ遊びに行くわけではないですが、図書館や祖母の家に連れていってくれたりするので、やっぱり楽しみです。

そんなお母さんでも、一ついやな所があります。それは、口うるさいことです。仕事から帰ってくると、私にいろいろ言ってきます。

「宿題してある？」

とか、

「おフロ入った？」

とか、

「明日の準備した？」

など、毎日のように言います。でも、毎日それを言われないと、私もすぐ後回しにしてしまうので、やっぱり言ってくれたほうがいいです。

もちろん、お母さんのいい所もあります。それは、なんでも言える所です。仕事でつかれて帰ってきてても、家のことをしていそがしそうでも、私が話をするときは、手を止めて聞いてくれます。ついこの前も、こういうことがありました。私の町内で夏祭りがありました。六年生は、

子ども会の手伝いをしなければなりません。私は、祭りの案内をするポスターを書くことになりました。その時も、お母さんに相談し、ポスターを作り上げました。とても分かりやすい目立つポスターができました。やっぱりお母さんに相談してよかったなあと思いました。学校であったいいこと、いやなことも言えるし、私が思っていることもお母さんになら、気軽に話せるので、家族の中で大きな存在です。

もう一ついいなと思っている所は、いっしょに何でも作ってくれる所です。小さいころは、よくパズルをいっしょに作りました。三十六ピースの簡単なものから始めて、作ってはこわしをくり返して、慣れてくるとピースの数が多いいパズルにいっしょに挑戦し、最高千ピースまで作ったことが記おくにあります。大きくなった今では、簡単なクッキングをいっしょにするのが楽しみです。ホットケーキやドーナツ、蒸しパンなどを工夫して作ります。お母さんはよく、

「ちよつと味見する。」

と言って、つまみ食いを何度もするので、困ります。でも、そんなお母さんと作る時間が、笑いがいっぱい楽しく感じるし、お母さんもすごく楽しそうで、私もうれしくなります。そして、こうして出来上がった食べ物、お店で売っている物よりも何十倍もおいしく感じます。

いつも仕事で帰りはおそくなることが多いけど、私たちのことや家事をしてくれるお母さん。毎日あたり前のように思っていたけれど、家族のために、いやがらずにしてくれるので、やっぱりすごいなあと思ひ、お母さんを尊敬します。

私が大人になったら、お母さんのように家事や仕事、子どもの世話まできちんとできるかどうか、自信がありません。だけど、少しずつ見習って、私もお母さんのような大人になりたいです。

私のお母さんは、いろんな失敗もするけど、やっぱり世界で一番やさしくて大好きなお母さんです。